

基準1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

1-1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

① 大学の理念・目的を踏まえて、学部（学科）の目的を適切に設定していますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

学部（学科）の理念・目的
 桃山学院教育大学学則第一条
 桃山学院教育大学（以下「本学」という。）は、キリスト教の愛と奉仕の精神に基づいた神への畏敬と人間の尊厳を理念とし、グローバルな視野と豊かな教養を身につけた世界の市民として、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成し、人類の福祉と人間文化の発展に寄与することを目的とする。本学は人間教育学部人間教育学科からなる。
 人間教育学部人間教育学科は、自己を確立するとともに他者を尊び、愛と奉仕を実践できる豊かな人間性に基づき、人々が文化を継承し新たな時代の担い手になるための働きかけである教育という営みについて、専門的な教育研究を行うことを通じ、高い学識とグローバルな視野を持ち、社会に貢献する有為な人材を育成することを目的とする。

② 大学の理念・目的と学部（学科）の理念・目的の適切性を定期的に検証していますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入してください。
 学部の理念や目的については、執行部会議にて適切に検証されている。
 [根拠資料] 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 執行部会議議事録

1-2 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

① 学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

② 学部（学科）の理念・目的を学生及び教職員に周知し、社会に対して公表していますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

※具体的な周知・公表方法を記入してください（本学Webサイト、刊行物等）。
 大学の理念・目的および人間教育学部の理念・目的については学則に明示し、全学生や教職員に配付する『履修の手引き』および本学のHPに掲載している。

1-3 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

① 学部（学科）の中・長期の計画を策定していますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

[根拠資料] 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 本学では、プール学院からの継承時に、2022年度までの目標として、KPI（重要業績評価指標）を作成している。指標には、・教員採用試験合格者数の増加、公務員採用試験合格者数の増加、企業就職率の向上、志願者数の増加、除籍・退学率の改善、学生満足度の向上の具体的な数値目標が設定されており、KPI整理表にて管理するとともに、点検・評価を行っている。

(2) 長所・特色

本学のキリスト教を基にした人間教育という理念・目的については各種ガイダンス、各種キリスト教関係行事、正課の授業、『履修の手引き』等、様々な機会や刊行物を通して周知されており、学生・教職員が同じ目標に向かって日々の活動に取り組んでいる。

(3) 問題点

1-3で述べたとおり、本学は2018年度の継承の際に2022年度までの目標としてKPIを作成し、諸施策を実行しているが、文書化された中・長期計画はない。

基準2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

2-1 内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示しているか。

(2-1) ① 内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示していますか。

○	はい
	いいえ

※学部（学科）においてどのような形で明示しているかを記入してください。
 方針および手続については、本学自己点検・評価規程第1条および第2条に下記のとおり明示されている。

第1条 この規程は、桃山学院教育大学学則第2条第3項の規定に基づき、桃山学院教育大学(以下「本学」という。)の教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動及び管理運営等の状況について、自ら行う点検及び評価(以下「自己点検・評価」という。)に関し、必要な事項を定めることを目的とする。
 (自己点検・評価委員会)

第2条 本学に、次の各号に掲げる事項を審議し実施するため、桃山学院教育大学自己点検・評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

1. 本学における自己点検・評価の基本方針及び実施基準の策定に関すること。
2. 全学に係る自己点検・評価の実施に関すること。
3. 自己点検評価結果のとりまとめに関すること。
4. 自己点検・評価結果の学長への報告に関すること。
5. 自己点検・評価システムの見直しに関すること。
6. その他自己点検・評価に必要な事項に関すること。

本学では各部署、委員会にて自己点検・評価を実施し、その結果を自己点検・評価委員会が評価し、執行部会議へ改善点を提言する。執行部会議では自己点検・評価委員会の提言を受け、改善点について審議し、各部署および委員会へ指導や支援を適切に行うことで内部質保証を実施している。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 自己点検・評価規程

2-2 内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているか。

(2-2) ① 内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備していますか。

○	はい
	いいえ

※全学的な体制の名称（委員会組織等）をご記載ください。
 本学では執行部会議が内部質保証の推進組織として機能している。自己点検・評価委員会からの評価書の確認、提言を受け、執行部では改善にむけての指導・支援を行う。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 執行部会議規程

2-3 方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。

(2-3) ① 学部（学科）における内部質保証システム（教育・学習等が適切な水準にあるかどうかを検証し、改善に結び付ける組織的な活動）を適切に機能させていますか。

○	はい
	いいえ

※学部（学科）における内部質保証システムを担う組織（教授会や学部内委員会等）の構成、活動内容等を記入してください。
 本学の自己点検・評価を担う自己点検・評価委員会は学長、副学長、学部長、コース長および教務部長、事務部長、総務担当課長等で構成されており、毎年度自己点検・評価を実施し、執行部会議へ点検内容を報告し、執行部会議では点検内容を受けて、大学全体の取り組みを評価し、各組織へ改善点を指導、支援することによって内部質保証を機能させている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 自己点検・評価委員会規程、執行部会議規程

2-4 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか

(2-4) ① 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の公表を適切に行っている。

○	はい
	いいえ

情報の公表状況について記入してください。

自己点検・評価報告書については本学のホームページの情報公開へ公表している。また、本学の基本情報ならびに必要な情報についても情報公開ページへ掲載することで社会に対する説明責任を果たしている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

本学ホームページ「情報公開」 (<https://www.andrew-edu.ac.jp/info/disclosure.html>)

2-5 内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

(2-5) ① 全学的なPDCAサイクルの適切性、有効性。内部質保証システムの点検・評価。点検・評価結果に基づく改善向上を行っている。

○	はい
	いいえ

点検・評価。改善・向上について記入してください。

内部質保証システムの適切性については、自己点検・評価規程について、自己点検・評価委員会が自己点検・評価システムの見直しに関するを行うことになっており、毎年度、適切性を検討し、改善・向上に向けた取り組みを行っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

桃山学院教育大学自己点検・評価規程

(2) 長所・特色

本学は小規模の大学である点を活かし、自己点検・評価を含めた内部質保証を自己点検・評価委員会および執行部会議を中心に効果的に行うことができる。

(3) 問題点

内部質保証の方針については、自己点検・評価規程の中に記されるに留まっており、全学的な観点での内部質保証に関する方針を作成し、周知する必要がある。また、効果的な内部質保証を実行していくため、外部有識者も含めた点検・評価を行っていく必要がある。

基準3 教育研究組織

3-1 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。

(3-1) ① 大学の理念・目的と学部（学科または課程）構成及び研究科構成との適合性は適切ですか。

○	はい
	いいえ

※全学的な体制の名称（委員会組織等）をご記載ください。

本学の教育の目的を達成するために、人間教育学部のもとに人間教育学科を設置し、さらに小学校教育コース、幼児保育コース、健康・スポーツ教育コースを置いている。学部、学科、コースの活動を行うための各種委員会については、基幹となる定例委員会として教務委員会、教職課程委員会、キャリアラーニングセンター委員会、学生委員会、入試広報委員会を置き、非定例委員会として、図書委員会、紀要編集委員会、エレノアチャペル活動委員会、国際交流プロジェクト委員会、社会連携・ボランティア支援委員会、インターンシップ委員会、IR・FD委員会、自己点検・評価委員会、研究倫理委員会、研究推進委員会を組織している。また、各センターの運営のため、教職センター運営会議、キャリアラーニングセンター運営会議、学生支援センター会議を組織している。

〔根拠資料〕 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

各種委員会構成員一覧

3-2 教育研究組織の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。またその結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

(2-3) ① 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価を行い、改善・向上へとつなげていますか。

○	はい
	いいえ

※研究組織の適切性点検・評価をどのように行っているかを記入してください。

2018年度の継承の際に教育研究組織の適切性についての見直しを行ったほか、2021年度の定員増による新しい課程の設置に伴う見直しを行うなど、常時執行部会議にて点検し、必要に応じて改善・拡充を図っている。

〔根拠資料〕 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

執行部会議議事録

(2) 長所・特色

本学は小規模大学のため、各部署における点検・評価に基づく検証ならびに改善を執行部会議が素早く、効果的に実施することができる。

(3) 問題点

各委員会・センターなどの位置づけが整理されていないため、早急に整備しなければならない。

基準4 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

① 学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
学部（学科）の学位授与方針 学則の目的に定める人材育成に向け、人間教育の理念に即し専門分野に関する知識・技能並びに教養を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与する。 1. 教育課程に定められた科目を確実に修め、教員・社会人として全ての基盤となる基礎的な知識、確かな判断を導く幅広い教養、これからの社会を確かなものとして築いていく専門性を、十分に修得したと認められること。 2. 大学、地域社会、国際社会の中での出会いを大切に、多様な環境でコミュニケーション力を高め、柔軟で先見性のある人間観を育ててきたこと。そして、子どもたちが夢を持てる発展性のある未来についての展望を持ち、それを実現する使命感と責任感を養ってきたこと。その上で、他者に対する寛容と規律の精神をもって協働性を発揮して、これからの社会を築く一員となる強い意志と高い志を身に付けてきたこと。 3. 在学中の学問研究を通して、自分自身が大切にすべき世界観を確かなものとして育み、自分自身の責任ある判断で行動できる主体性を確立して、誇れる我を身に付けてきたこと。その上で、人間的な成長すなわち人格の完成を弛むことなく追い求めてきたこと。さらに、今後も努力を惜しまず自己を高めていく覚悟があること。		
② 学部（学科）の学位授与方針は、全学のものとの一体性・整合性が図られていますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
③ 学部（学科）の学位授与方針を周知・公表していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
※具体的な周知・公表方法を記入してください（本学Webサイト、刊行物等）。 本学Webサイト、『履修の手引き』		

4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

① 学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
学部（学科）の教育課程の編成・実施方針 教員・社会人としての資質・能力を確実に修得できるよう、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目、専門科目として4年間の学修を目標とした教育課程を編成する。さらに、教育学基礎演習、教育学演習、教育学専門演習、卒業研究と段階を追った研究を、チューターによって支援していく。 1. 基礎教育科目には、本学の教育理念である人間教育を学ぶとともに、大学教育への導入と大学での学修に必要な基礎的な知識や技能を習得することを目標として置く。全てを必修科目として1年次を対象とし、将来への展望のもとに体系的な学修計画を立てられような学びも併せて行う。 2. 教養科目には、教育者として求められる幅広く深い教養を身に付けることによって、確かな理解力と豊かな感受性を養うことを目標として置く。過去および現代の社会についての学び、倫理観や人の心についての学び、科学的な世界観についての学び、および日本の伝統的な文化や精神についての学び等、多様な講座を設ける。 3. 専門基礎科目には、幼児児童生徒理解のために必要な科目や教育に関する基礎理解のための科目等、教育の専門科目を学習するための基礎となる科目群を置いて、専門的な学びの基礎を築くことを目標とする。 4. 専門科目には、教職に関する科目、教科に関する科目、保育に関する科目、健康・スポーツに関する科目、特別支援教育に関する科目、養護に関する科目、キャリア形成に関する科目等において、教育者としての専門的な力量の育成を目標とする。 5. 将来を見据えたキャリア形成と教育者としての自覚の形成を図るために、インターンシップ、教育実習、保育実習、介護等体験実習等を実習科目として置く。併せて国際的な広い視野を持てるよう海外インターンシップの機会も設ける。		
② 学部（学科）の教育課程の編成・実施方針は、全学のものとの一体性・整合性が図られていますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
③ 学部（学科）の教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
※具体的な周知・公表方法を記入してください（本学Webサイト、刊行物等）。 本学Webサイト、『履修の手引き』		

4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

① 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供していますか。	○	はい
		いいえ
<p>※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供している教育課程・教育内容の概要を記入してください。</p> <p>カリキュラムの科目区分 「カリキュラム・ポリシー」にしたがい、4年間で学ぶすべての科目は、「基礎教育科目」、「教養科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分されている。</p> <p>(a) 基礎教育科目 大学教育への導入と大学での4年間の学習に必要な基本的知識や技能を習得するための科目群である。すべて1年次を対象として、必修科目になっている。</p> <p>(b) 教養科目 専門的職業人とくに教育・保育従事者としての幅広い教養を身につけるとともに広い識見と柔軟な感受性を養うための選択科目群である。4年間を通して履修することができる。</p> <p>(c) 専門基礎科目 教育・保育の専門科目を学修するための基礎となる科目群です。大きく三つに分かれる。一つめは教育・保育の対象者（子ども）とその文化の基礎理論や概説的理解のために必要な科目、二つめは教育・保育に関する基礎理論を習得するための科目、三つめは2年次クラス担任による演習科目である。</p> <p>(d) 専門科目 専門科目は、①保育士に関する科目、②教職に関する科目（幼・小）、③領域および保育内容に関する科目、④教科に関する科目（小）、⑤教職に関する科目（中・高）、⑥健康・スポーツに関する科目、⑦特別支援教育に関する科目、⑧養護に関する科目⑨キャリアに関する科目、⑩専門演習・卒業研究に関する科目に区分される。 これらの科目群は、教育学科で取得可能な免許状や資格の、専門性を養う科目を中心に構成されている。</p>		
<p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p> <p>『履修の手引き』22頁</p>		
② 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	○	はい
		いいえ
<p>※どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置付け（必修・選択等）含む）への配慮が行われているかについて、概要を記入してください。</p> <p>学生にカリキュラム・マップを示し、順次的・体系的な履修への配慮を行っている。個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置付け等についてはシラバスに記載している。</p> <p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p> <p>カリキュラム・マップ（『履修の手引き』32～33頁） シラバス（本学Webサイト）</p>		
③ 教養科目（共通教育科目）と専門科目（学科教育科目）の適切な配置を行っていますか。	○	はい
		いいえ
<p>※教養科目（共通教育科目）と専門科目（学科教育科目）の適切な配置をどのように行っているのか、概要を記入してください。</p> <p>共通教育科目は「基礎教育科目」、「教養科目」、「専門基礎科目」で構成し、学科教育科目は「専門科目」で構成する。各科目区分の内容は、上記4-3①「学生に提供している教育課程・教育内容の概要」のとおりである。</p> <p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p> <p>『履修の手引き』22頁</p>		
④ 初年次教育や高大接続への配慮を適切に行っていますか。	○	はい
		いいえ
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入してください。</p> <p>1年次から少人数制の演習（ゼミ）を必修科目として設置している。参加型の授業を通して、自発的な問題解決力のほか、プレゼンテーション力やコミュニケーション力、協調性を養成する。「教養科目」として「キャリア基礎」の科目群を置き、基礎的な学力の向上を図っている。正課外の教育としては、e-ラーニングシステム「桃教Reドリル」、入学前登校日、「教職てらこや」における学習指導、「図書館ガイダンス」等により、高大接続への配慮を行っている。</p> <p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p> <p>本学Webサイト</p>		

4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

① 教育課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期毎の履修登録単位数の上限設定等）を適切に行っていますか。	○	はい
		いいえ
<p>※単位の実質化を図るために、どのような措置を行っているのか概要を記入してください。 学期毎の履修登録単位数の上限を24単位と定めている。</p>		
<p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p>		
<p>桃山学院教育大学人間教育学部履修規程第5条</p>		
② 学生の履修指導を適切に行っていますか。	○	はい
		いいえ
<p>※学生の履修指導の体制及び方法について、概要を記入してください。 履修指導は教務委員会とチューターが協力して行っている。1、2年次生に対しては各学期の始めに、3、4年次生に対しては年度の始めに履修ガイダンスを実施している。</p>		
<p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p>		
<p>2019年度前期履修ガイダンス資料（1～4年次生用）</p>		
<p>2019年度後期履修ガイダンス資料（1～2年次生用）</p>		
<p>2019年度オリエンテーションウィーク教務関係ガイダンス要領</p>		
<p>2019年度後期 開講前行事予定について</p>		
<p>学生履修状況表</p>		
③ 学生の学習指導を適切に行っていますか。	○	はい
		いいえ
<p>※学生の学習指導に関する取り組みの概要を記入してください。 1年次から少人数制の演習（ゼミ）を必修科目として設置している。演習担当の専任教員がチューター（担任）となり、希望進路や特性に応じ、履修計画の作成や学生生活などについてもアドバイスをを行う。定期的なコース会議、チューター会議で指導方針や情報を共有するなど、教員全体でのサポート体制も整えている。</p>		
<p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p>		
<p>本学Webサイト</p>		
④ 学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。	○	はい
		いいえ
<p>※学生の学習時間（予習・復習）を確保するための取り組みの概要を記入してください。 シラバスに自習学習を学生にどのように行わせるかについて記載し、学生に周知している。</p>		
<p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p>		
<p>2020年度シラバス作成の手引き</p>		
<p>シラバス（本学Webサイト）</p>		
⑤ 教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	○	はい
		いいえ
<p>※学生の学習時間（予習・復習）を確保するための取り組みの概要を記入してください。 アクティブラーニングの視点から取り組む内容を具体的にシラバスに記載するようにしている。</p>		
<p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p>		
<p>2020年度シラバス作成の手引き</p>		
<p>シラバス（本学Webサイト）</p>		
⑥ 授業形態（講義、語学、演習等）に即して、1授業あたりの学生数を配慮していますか。	○	はい
		いいえ
<p>※1授業あたりの学生数をどのように配慮しているのか概要を記入してください。 受講者が多く見込まれる講義科目や、語学や演習等の少人数による指導が必要な科目は複数クラスを開講するほか、授業形態や科目内容によっては予備登録による人数制限を行うことで、1授業あたりの学生数に配慮している。</p>		
<p>【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。</p>		
<p>「授業クラスサイズ設定基準」</p>		
<p>2019年度時間割表</p>		

⑦ シラバスが適切に作成されているかについて検証を行っていますか。

○	はい
	いいえ

※検証体制及び方法の概要を記入してください。

事務局によるチェックに加え、専門科目のシラバスについては各免許種ごとに教務委員がチェックし、基礎教育科目、教養科目、専門基礎科目については教務部長がチェックをしている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

2020年1月22日教務委員会議事録

⑧ 授業がシラバスに沿って行われているかについて検証を行っていますか。

○	はい
	いいえ

※検証体制及び方法の概要を記入してください。

学生の授業評価にて授業についての内容や、授業に関する自由項目欄を設けており、授業内容に関する検証を包括的に行っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

学生による授業評価

4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

① 成績評価及び単位認定を適切に行っていますか。

○	はい
	いいえ

※成績評価と単位認定の適切性の確認体制及び方法の概要を記入してください。

桃山学院教育大学試験及び成績評価に関する規程に基づき、教務委員会において再試験対象科目等を確認し、「期末試験・成績採点のしおり」により学期毎に成績評価と単位認定の方法を確認している。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

桃山学院教育大学試験及び成績評価に関する規程

2019年5月22日教務委員会議事録

2019年11月20日教務委員会議事録

2018年度前期 期末試験・成績採点のしおり

2018年度後期 期末試験・成績採点のしおり

② 厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。

○	はい
	いいえ

※厳格な成績評価を行う取り組みの概要を記入してください。

各授業科目のシラバスに授業の方法および内容、到達目標、成績評価の方法等を記載し、公表している。成績の評価方法は、評価項目の割合をパーセントで示している。評価指標は、通常のGPAに比べて素点の差異をより詳細に反映するfunctional GPA (fGPA)を採用している。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

2020年度シラバス作成の手引き

シラバス（本学Webサイト）

『履修の手引き』64～65頁

③ 学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与を行っていますか。

○	はい
	いいえ

※学位授与に係る責任体制及び手続等の概要を記入してください。

学位授与に係る要件を満たし卒業可能な者について教務委員会で確認した後、学長が教授会で意見を聴き決定する。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

2020年3月2日教務委員会議事録

2020年3月4日教授会議事録

4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

① 学部（学科）単位で成績分布の状況を把握していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等について記入してください。 教務委員会において学年ごとのfGPAの分布（直近の学期および累計）をグラフで確認している。		
【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。 2019年度前期GPA分布 2019年度後期GPA分布		
② 教育課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定又は取り組みを行っていますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
※学習成果を測定するための指標の適切な設定又は取り組みの概要を記入してください。 従来から卒業後の進路状況や退学率等を使っているが、新たな指標として「桃教スタンダード」を策定した。この指標については、「教育実習ハンドブック」を全員に配付し、教務ガイダンスにて周知した。		
【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。 2019年度進路状況 休学・退学・除籍一覧 「桃教スタンダード」		
③ 学習成果の把握をしていますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
※学習成果の把握についての概要を記入してください。 卒業後の進路状況や退学率についての情報を執行部会議で共有している。またチューターはUniversalPassportを通して学生の履修状況を確認することができ、指導を行っている。その他に履修カルテを用いての指導も行っている。		
【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。 執行部会議議事録		
④ 学部（学科）単位で学生の就職・進路等の状況を把握していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等について記入してください。 学生の就職・進路等の状況についてはキャリアラーニングセンターが学生一人ひとりについて把握し、とりまとめ、執行部会議にて確認している。		
【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。 学生就職状況一覧		

4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

① 学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入してください。 教務委員会において今年度の学修成果を把握・検証し、次年度の教育内容の改善を図っている。2019年度は、教務委員会での検証の結果、2020年度に「教育実習指導」の授業に教職センター所属教員がサポートで入ることにした。なお、2020年度からは「桃教スタンダード」による検証も行う予定である。		
【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。 2019年12月11日教務委員会会議録		

(2) 長所・特色

本学は、教育のための知識やスキルだけではなく、自身の豊かな人間性を磨く「人間教育」を目指している。

(3) 問題点

学修成果の把握や検証については充実を図る必要がある。2020年度は学修成果の指標として「桃教スタンダード」を策定したので、学修成果の把握と検証をさらに充実させたい。

基準5 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

① 学部（学科）として求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ

学部（学科）の学生の受け入れ方針

人間教育学部では、幅広く深い知識や技能を習得し、豊かな教養を身に付け確かな専門性を備え、それを基盤としてグローバルな視点からこれからの日本の教育を展望して、主体的に担っていかうとする強い意志を持つ教育者を養成することを目標とする。また、多様な人々との高いコミュニケーション力や協働できる力、お互いの違いを受け止める柔軟性等の、社会人として備えるべき資質や能力も育成していく。そのために以下のような学生を求める。

1. 高等学校で修得した基礎的な学力を身に付けていること。(a,b)
2. 大学での専門的な学修を最後まで為し遂げる意志を持っていること。(b,c)
3. 将来の進路の実現に向けての強い希望と意志を持ち続けられること。(c)
4. 教育者としての教養を幅広くかつ深く身に付けようとする関心が高いこと。(a,c)
5. 主体的に判断し行動できる自己を求めて人間的な成長を常に追求する姿勢を持てること。(b,c)

* a：知識及び技能 b：思考力・判断力・表現力等 c：主体性・多様性・協働性

② 学部（学科）の学生の受け入れ方針は、全学のものとして一体性・整合性が図られていますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ
③ 学部（学科）の学生の受け入れ方針を周知・公表していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ

※具体的な周知・公表方法を記入してください（本学Webサイト、刊行物等）。
本学Webサイト、入試ガイド等

5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

① 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ

※学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制、入学者選抜の公正な実施方法の概要を記入してください。
学生の受け入れ方針に応じた多様な制度として、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を設定し、入試広報委員会を中心に全学で実施運営を行っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
桃山学院教育大学入試広報委員会規程、桃山学院教育大学入学者選抜制度規程

5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

① 定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ

※入学定員・収容定員の超過・未充足に対する取り組みの概要を記入して下さい。
設置者変更後、入学定員175名に対し、2018年度入学生186名、2019年度193名、2020年度178名といずれも入学定員超過率は1.1倍以内であり、適正な入学者数となっている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
入学定員超過の状況

5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

① 学生募集及び入学者選抜の結果について検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	<input type="radio"/>	はい
		いいえ

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入してください。
選考実施の度（当初→総合型選抜→学校推薦型選抜→一般選抜）に点検・評価を行っている。①事務段階（入試グループ）での外的要因を含めた適性合格者数と歩留まり予測による入学者数の随時検証、②教員組織（入試広報委員会）での妥当性の検討、③執行部（入試判定会議）による原案承認の3段階で点検・評価が行われている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
入試広報委員会議事録

(2) 長所・特色

入学定員における入学者数は、2018年度、2019年度、2020年度と3年連続1.0倍以上、1.1倍以下であり、適正に進められている。

(3) 問題点

競合他大学の合格者数によって、本学の歩留まり率の上下変動が激しいことへの対策が必要である。

基準6 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

6-1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

- ① 大学の理念・目的に基づき、学部（学科）の教員組織の編成に関する方針を明示していますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| □ | いいえ |

求める教員像及び教員組織の編成に関する方針
 本学の求める教員像として、桃山学院教育大学教員選考基準第2条に下記の通り明記されている。
 (選考基準)
 第2条 教員の選考は、すぐれた人格、識見を有し、かつ本学の建学の精神に深い理解を有し、第3条から第7条の資格を有する者について行わなければならない。
 また、教員組織の編成については本学の理念・目的を達成するために相応しい組織編制をおこなっている。

- ② 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように整備していますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| □ | いいえ |

※執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制等の概要を記入してください。
 本学の教員組織編制を統括する組織として、学長、副学長、学部長、コース長、図書館長、教職センター長、事務部長等によって構成される執行部会議がある。基幹委員会として、教務委員会、教職課程委員会、キャリアラーニングセンター委員会、学生委員会、入試広報委員会があるが、多くの委員長は執行部会議の構成員が兼任しており、委員会および各コース等で挙げられた意見についてはスピード感をもって執行部会議で審議され決定される。
 [根拠資料] 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 桃山学院教育大学執行部会議規程、2020年度桃山学院教育大学各種委員会構成員一覧

6-2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

- ① 学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| □ | いいえ |

※教員像及び教員組織の編成方針、カリキュラムとの整合性、男女比率等の観点から教員組織の概要を記入してください。
 6-1に示したとおり、本学では求める教員像及び教員組織の編成に関する方針を定めており、大学及び学部の理念・目的を達成するために、大学設置基準やカリキュラムとの整合性にも留意しながら適切に教員組織を編成している。男女比や年齢構成については一定の偏りがある。
 [根拠資料] 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 教員年齢・性別構成一覧

- ② 特定の範囲の年齢に著しく偏らないよう配慮していますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| □ | いいえ |

※配慮の概要を記入してください。
 教員の年齢構成については、採用時に配慮をしているが、業績等を慎重に勘案した結果、50代～60代の比率が高くなっている。
 [根拠資料] 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 教員年齢・性別構成一覧

6-3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

- ① 募集、採用、昇任等に関する基準を整備し、規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を適切に行っている。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| □ | いいえ |

募集、採用、昇任等の概要について記入してください。
 本学の教員の募集、採用、昇任については規程等を基に適切に行っている。2020年度には6名の教員を採用した。
 [根拠資料] 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 桃山学院教育大学教員選考規程、桃山学院教育大学専任教員の採用・昇格に関する規程

6-4 ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に

(6-4) つなげているか。

① 学部（学科）内のFD活動は適切に行われていますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

※学部（学科）内でFD活動を適切に行うための体制及び活動内容の概要を記入してください。
2019年度のFD活動として、①学生による授業評価、②教員相互の授業参観、③FD研修会をIR・FD委員会が中心となって行っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

学生による授業評価資料、授業参観案内、FD研修会案内

② 研究活動を活性化するための方策を講じていますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

※研究活動の活性化を行うための取り組みの概要を記入してください。
本学では研究のための資金として年間30万円の個人研究費を支給するとともに、学内の競争的資金として研究奨励費を予算化している。研究の活性化のため、2019年度には研究推進委員会を設置し、科研費採択のための支援や研究活動のスキルアップを図っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

桃山学院教育大学教員個人研究費・個人研究旅費規程、2020年度研究奨励費一覧、研究スキルアップ講習会案内

6-5 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っ

(6-5) ているか。

① 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入してください。
教員組織の適切性については各委員会、コース等からの意見に基づいて執行部会議にて検証し、改善すべき点があれば随時改善に取り組んでいる。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

執行部会議議事録

(2) 長所・特色

小規模大学のため、各委員会、各コースからの意見が速やかに執行部会議に挙げられ、改善・向上に向けた取り組みが迅速に実施されている。

(3) 問題点

求める教員像、教員組織の編成に関する方針については、規程、学則に記載されるに留まっているため、明文化された方針が必要である。また、研究を推進するための研究推進委員会については規程化されていないため、これを整備し、研究推進のための役割分担を明確にする必要がある。

基準7 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

7-1 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。

(7-1) ① 大学の理念・目的、入学者の傾向等を踏まえた学生支援に関する大学としての方針を明示していますか。

○	はい
	いいえ

※明示する方法について記入してください。
 本学の学生支援に関する方針としては大学案内に以下の通り明記されている。

■修学支援として

- ・教員の充実
- ・少人数制による指導
- ・実践力を養成するための現場主義の充実

■キャリア支援として

- ・「教職センター」によるバックアップの充実
- ・有志勉強会での教員によるサポート体制の充実
- ・面接試験の指導
- ・「公務員就職支援室」によるバックアップの充実
- ・進路に合わせた個別指導の実施
- ・学校外インターンシップの充実

■生活支援として（「桃山学院教育大学障がいのある学生支援ガイドライン」より）
 桃山学院教育大学は、障害者基本法その他の法令の定めに基づき、障がいの有無に関わらず、全ての学生に等しく教育の機会が与えられるように、支援に係る全学的な取り組みを推進する。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 大学パンフレット、「桃山学院教育大学障がいのある学生支援ガイドライン」

7-2 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われている

か。

① 学籍異動状況（卒業・留年者・休学・退学・除籍）を学部（学科）単位で把握していますか。

○	はい
	いいえ

※データの把握主体・把握方法・データの種類等について記入してください。
 学籍異動(退学、休学)は本人及び保証人連署の上、文書にて提出された願出とチューターの所見を保管している。学長決裁後、執行部会議で報告し、学籍異動に関する許可書等を本人宛送付する。学籍異動毎にGAKUENデータベースに異動理由等を登録し、都度一覧表を作成する。学籍異動毎に在籍数一覧表の作成、学期毎に学年別「在籍簿」（含卒業、除籍）を作成し、学生数の把握をしている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 休学・退学願
 チューターの所見（手書もしくはワード作成文書）
 学籍異動者・理由一覧表
 在籍数表
 在籍簿（エクセル作成、ファイル資料保管）

② 学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。

○	はい
	いいえ

※修学支援の概要を記入してください。
 1年次から少人数制の演習（ゼミ）を必修科目として設置。定期的なコース会議やチューター会議で指導方針や情報を共有するなど、教員全体でのサポート体制を整えている。修学に問題のある学生については学生支援センター会議にて支援体制について検討がなされている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 コース会議議事録、学生支援センター会議議事録

③ 成績が不振な学生に対して、適切に対応していますか。

○	はい
	いいえ

※成績が不振な学生の状況把握と指導の取り組みを記入してください。

各チューターが学生の出席率、GPA、修得単位数を教学システム（Universal Passport）で確認して成績が不振な学生の状況把握をし、個別面談・指導を行っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

コース会議議事録

④ 学部（学科）として外国人留学生の修学支援について、適切に対応していますか。

○	はい
	いいえ

※外国人留学生の修学支援の概要を記入してください。

2020年5月1日現在、外国人留学生は在籍していないが、2019年度まで1名の学生が在籍しており、生活指導等を目的とした定期面談や就職支援を実施した。また経済的支援を目的とした授業料減免制度と成績優秀者に給付する奨学金制度による支援を実施してきた。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

特になし

7-3 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っ

(7-3) ているか。

① 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っていますか。

○	はい
	いいえ

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入してください。

学生支援の適切性については、本学の理念・目的に基づき適切に行われているか学生委員会、学生支援センター会議、教務委員会、キャリアラーニングセンター委員会などの各委員会等において点検・評価を行っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

学生委員会、学生支援センター会議、教務委員会、キャリアラーニングセンター委員会等議事録

(2) 長所・特色

本学は小規模大学のため、学生一人ひとりにきめ細かく対応することが可能である。学生支援に第一に対応するのはチューターであるが、チューター以外の教員や職員への相談も多く、適宜チューターと連携しながら幅広い学生に対しての支援をおこなっている。

(3) 問題点

本学では本学および学部の理念・目的に応じて学生支援をおこなっているが、一環した支援を行うため、部署間の連携を深めていく必要がある。

基準8 教育研究等環境

8-1 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。

(8-1) ① 大学の理念・目的、各学部、研究科の目的等を踏まえた教育研究活動等環境に関する方針を明示していますか。	<input type="radio"/>	はい
	<input type="radio"/>	いいえ
教育研究等環境に関する方針。		
本学では、教育研究等環境に関する方針については明示していないため、2020年度に方針を作成し、公表する予定である。		

8-2 教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備している。

① ネットワーク環境や情報通信技術（ICT）等機器、備品等の整備を行っていますか。	<input type="radio"/>	はい
	<input type="radio"/>	いいえ

現在及び今後予定の整備状況について記入してください。

ICT関連の社会的ニーズの高まりを受け、本学ではICTの整備については継承時から注力している。2018年度にはネット環境の安定化のため、基幹サーバーの更新を行った。また、プール学院大学時代より小教室を除く全教室にスクリーン・プロジェクターが設置されていたが、設置時期が古く、現在の環境に合わないものも散見されたため、年次的に新しいものへ更新している。2019年度にはwifi設備を導入し、学内のほぼすべての施設でwifiが利用可能とし、学生が利用可能なパソコンを全205台から224台へ増設するなど必要な設備の整備を行っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

情報機器一覧

② 施設、整備等の維持及び管理、安全及び衛生の確保がなされていますか。	<input type="radio"/>	はい
	<input type="radio"/>	いいえ

現在及び今後予定の整備状況について記入してください。

プール学院大学時代に未整備であった耐震改修について、2018年度に整備を行い旧耐震基準の建物についてもIS値0.7以上を確保した他、老朽化が進んでいる空調設備やトイレ等についても順次更新工事を実施している。また、設備の維持管理については、法令等に基づき、ビルメンテナンス会社に委託・管理している。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

堺キャンパス改修工事一覧

③ バリアフリーへの対応や利用者の快適性に配慮したキャンパス環境整備がなされていますか。	<input type="radio"/>	はい
	<input type="radio"/>	いいえ

現在及び今後予定の整備状況について記入してください。

本学では、誘導ブロック、スロープ、エレベーター、多機能トイレ、車両用フリースペース等を有し、バリアフリーへの対応を行っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

特になし。

④ 学生の自主的な学習を促進するための環境整備がなされていますか。	<input type="radio"/>	はい
	<input type="radio"/>	いいえ

現在及び今後予定の整備状況について記入してください。

本学では、図書館、教職センター、食堂を自主学習を行えるフリースペースとして開放している。また、パソコン機器については学生支援センターに学生が自由に利用できるパソコン40台を整備している。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

情報機器一覧

⑤ 教職員及び学生の情報倫理の確立に関する取り組み	<input type="radio"/>	はい
	<input type="radio"/>	いいえ

現在及び今後予定の整備状況について記入してください。

学生に対しては、例年学生ガイダンス等にてSNSについての注意喚起を行っている。また、情報倫理の確立に向けた取り組みとして講演会などによる教職員を対象とした研修を2020年度中に行う予定である。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

学生ガイダンス資料

8-3 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。

- ① 図書資料の整備と図書利用環境を適切に整備していますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| | いいえ |

図書資料と利用環境の整備について記入してください。
 図書館の閲覧室は1,033㎡で十分な面積を設けており、蔵書数は13万冊である、閲覧座席は160席であり収容定員の10分の1以上の座席を設けている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 特になし

- ② 図書館、学術情報サービスを提供するための専門的な知識を有するものを配置していますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| | いいえ |

現状と今後予定の整備について記入してください。
 学術サービスについては専門の職員を配置しており、専門の知識を有する図書館の業務委託職員と連携している。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 特になし

8-4 教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

(8-4)

- ① 研究活動を促進させるための条件の整備を行っていますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| | いいえ |

現状と今後予定の整備について記入してください。
 本学では、年間30万円の個人研究費を配分し、研究者は必要に応じて個人の裁量で使用することができる。また、学内の競争的資金として研究奨励費を設定し、審査の上研究費を配分している。
 その他研究を促進するために、2019年度より研究推進委員会を設置し、2020年度には研究スキルアップ講座、科研費の採択支援などを行う予定である。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 個人研究費規程、研究奨励費採択者一覧、科研費採択支援採択者一覧

8-5 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

(8-5)

- ① 研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組みを適切に行っていますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| | いいえ |

現状と今後予定の整備について記入してください。
 本学では、研究倫理教育担当者である学部長のもと、日本学術振興会のelcoreでの研究倫理教育の受講を義務付けている。2018年度は研究者全員が受講している。2019年度は新任の教員のみを実施し、2020年度も新任教員に対し実施する予定である。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 elcore履修証明書

8-6 教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組み

(8-6) を行っているか。

- ① 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価を行っていますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| | いいえ |

適切な根拠について記入してください。
 教育研究環境の適切性についてはプール学院大学からの継承の際に点検・評価を行っており、それを基に毎年度整備内容について検討している。今後も引き続き必要な設備の設置に向け努力していく。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 特になし

- ② 点検・評価結果に基づく改善・向上について記入してください。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| | いいえ |

点検・評価結果に基づく改善・向上内容について記入してください。
 継承の際の点検・評価にしたがって中・長期計画を策定し、修繕計画を立案している。施設関係については総務グループ、教室の環境については教務グループ、ネットワーク環境については総務グループ学術情報支援室が状況を把握し、改善に取り組んでいる。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 三井住友信託銀行作成「プール学院大学泉ヶ丘キャンパス建物修繕計画（2017～25年間）」（2016年11月15日付）他

(2) 長所・特色

本学は、規模が小さいため、教育研究環境については把握しやすい環境である。各担当が状況を把握し、総務グループが集約することで執行部会議へ意見を挙げ、改善に向けて取り組んでいる。

(3) 問題点

本学では、教育環境整備に関する方針が明示されておらず、早急に作成する必要がある。また、校舎の規模が小さく、施設の修繕の際に代替の施設の確保が困難である。さらに建築より35年以上を経過し、建物の老朽化への対応も課題となってきた。

基準9 社会連携・社会貢献

(1) 点検・評価項目における現状

9-1 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。

(9-1)

- ① 大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた社会貢献・社会連携に関する方針を適切に明示していますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| □ | いいえ |

方針について記入してください。
規程にて明示している。

①学則
第1条 桃山学院教育大学(以下「本学」という。)は、キリスト教の愛と奉仕の精神に基づいた神への畏敬と人間の尊厳を理念とし、學術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、グローバルな視野と豊かな教養を身につけた世界の市民として、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成し、人類の福祉と人間文化の発展に寄与することを目的とする。本学は人間教育学部人間教育学科からなる。

②社会連携・ボランティア支援委員会規程
第2条 この規程における社会連携・ボランティア支援とは、地方自治体、企業、地域社会等との交流・連携による地域連携活動や産官学共同プロジェクトを含むすべての活動と、学生が自発的かつ能動的に行う非営利の公益活動をいう。
第3条 委員会は、本学の教育活動の一環として教育課程との関連が図られるよう留意し、諸活動を通して地域社会へ貢献するとともに、学生の創造性、自主性及び社会性を育むことができるように支援、助言を行う事を目的とする。

【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
学則、社会連携・ボランティア支援委員会規程

9-2 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果を適切に社会に還元しているか。

(9-2) ①

- ① 学外組織との適切な連携体制を構築していますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| □ | いいえ |

連携体制について記入してください。

ア. 本学・帝塚山学院大学・南海電鉄協働による事業（健康寿命の延伸と住民が住みたい街の実現を目標に泉北ニュータウンの活性化に取り組む）を複数回実施。
イ. 総合型地域スポーツクラブ『桃教スポーツアカデミー』との連携。
ウ. 大阪府住宅供給公社との連携協定（学生の安定的な居住による安心安全な学習環境の確保と地域コミュニティの活性化を目的）。
エ. 企業・団体との連携（教育学演習2におけるインターンシップの実施にあたり20件の企業・団体との連携）。

【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
本学HP、協定書等

- ② 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進を行っていますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| □ | いいえ |

社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動について記入してください。

上記①・アでの取組として、運動指導を担当する本学教員がイベント参加者向けに機能測定・集団認知検査を実施した。また本学学生が運営スタッフとして補助業務にあたっている。また、本学の教育研究活動の社会への発信として、年2回「人間教育フォーラム」を開催する他、発達障がいに関するフォーラムや父親を対象とした発達障がいに関する教室を実施。

【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
本学HP

- ③ 地域交流、国際交流事業への参加を行っていますか。
- | | |
|---|-----|
| ○ | はい |
| □ | いいえ |

地域交流、国際交流への参加について記入してください。

地域での複数イベント（自治連合会や市区町村の集客イベント）に運営スタッフとして学生が参加。また海外の協定校からの受入留学生による近隣幼稚園での交流会を実施。

【根拠資料】根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
本学HP、執行部会議事録・資料、学生委員会議事録・資料、国際交流プロジェクト委員会議事録・資料

9-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り

(9-3) 組みを行っているか。

① 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価を行っていますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

根拠とする資料、情報について記入してください。

プール学院大学では『地域・国際センター』ならびに同センター業務の運営組織として『地域・国際委員会』を設置し、全学的な取組を推進してきた。本学継承後2018年以降は、プール学院大学での社会連携のネットワークを活用するとともに、新たな連携体制を構築している。継承時には移行期間として一所管（学生課）が地域連携を担ったが、全学的な学内組織（社会連携・ボランティア支援委員会）の設立（2020年4月）に伴い、今後は当該組織が点検・評価を実施(当該組織が毎年度、学長に報告書を提出)する。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

プール学院大学認証評価（2014年）

② 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

現状について記入してください。

継承当初は、学生課が点検・評価を行っていたが、2020年度からは新しく発足する社会連携・ボランティア支援委員会を開催し取組に関する点検・評価を行う予定である。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

特になし

(2) 長所・特色

地域イベントに積極的に参加している。また、課題であった学内組織（社会連携・ボランティア支援委員会）を2020年度より設立。今後は同委員会を基点として、より機能的に社会連携・社会貢献を推進する。

(3) 問題点

2019年度までは、社会連携・社会貢献については単発的に実施されており、情報が集約されていなかった。そのため、2020年度からは社会連携・ボランティア支援委員会にて情報を集約し、主体的に社会連携・社会貢献を実施する予定である。

(1) 点検・評価項目における現状

10-1 大学の理念・目的、大学の将来を見据えた中・長期の計画等を実現するために必要な大学運営に関する大学としての方針を明

(10-1) 示しているか。

① 大学の理念・目的、大学の将来を見据えた中・長期の計画等を実現するための大学運営に関する方針を明示していますか。	○	はい
		いいえ

方針について記入してください。

本学では、プール学院からの継承時に、2022年度までの目標として、KPI（重要業績評価指標）を作成している。指標には、・教員採用試験合格者数の増加、公務員採用試験合格者数の増加、企業就職率の向上、志願者数の増加、除籍・退学率の改善、学生満足度の向上の具体的な数値目標が設定されており、KPI整理表にて管理するとともに、点検・評価を行っている。各年度に作成する事業計画には、この計画を達成するための方針が記されている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

KPI（重要業績評価指標）整理表、事業計画書

① 学内構成員に対する大学運営に関する方針の周知を行っていますか。	○	はい
		いいえ

方針の周知方法について記入してください。

KPIおよび事業計画については構成員に対し、周知している。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

KPI（重要業績評価指標）整理表

10-2 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それ

(10-2) に基づいた適切な大学運営を行っているか。

① 適切な大学運営のための組織の整備を行っていますか。	○	はい
		いいえ

組織の整備内容について記入してください。

執行部会議は、大学全体の方針を決定する最高審議機関であり、教育・研究に関する事項、教員人事に関する事項、事業計画に関する事項、予算(教育研究計画)に関する事項、組織および運営に関する事項、その他学長が必要とする事項について審議する。教授会は、学長が掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとしている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

桃山学院教育大学執行部会議規程、桃山学院教育大学教授会規程

② 適切な危機管理対策を実施していますか。	○	はい
		いいえ

危機管理内容について記入してください。

本学学内および学外において発生する危機に、迅速かつ的確に対処するため、危機管理に関する規程を策定し、本学の学生および教職員等の安全確保を図っている。また、法人および法人が有する学校と連携して危機に対応できる体制を議論するため、法人の局部長会の下に危機管理プロジェクトチームを作り、改革のための活動を行っている。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

桃山学院教育大学の危機管理に関する規程

10-3 予算編成及び予算執行を適切に行っているか。

(10-3)

③ 予算執行プロセスの明確性及び透明性を確保していますか。	○	はい
		いいえ

内部統制等、予算執行に伴う効果の分析、検証する仕組みの設定について記入してください。

桃山学院経理規程等、法人の規程に基づき、適切に執行している。

【根拠資料】 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。

桃山学院経理規程、桃山学院経理規程施行細則、桃山学院予算執行規程等

10-4 法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な事務組織を設けているか。また、その事務

(10-4) 組織は適切に機能しているか。

① 大学運営に関わる適切な組織の構成と人員配置を適切に行っていますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

諸規程等の整備内容について記入してください。
 桃山学院事務組織および事務分掌規程をはじめとする諸規程を整備している。

[根拠資料] 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 桃山学院事務組織および事務分掌規程

10-5 大学運営を適切かつ効果的に行うために、事務職員及び教育の意欲及び資質の向上を図るための方策を講じているか。

(10-5)

② 大学運営に必要なスタッフ・ディベロップメント (SD) を組織的に実施していますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

SDの実施内容について記入してください。
 本学のSDはIR・FD委員会を通して適切に行われている他、法人全体としてもSDに取り組んでいる。2018年度は7月に実施した人間教育フォーラム、8月実施の聖公会関係学校研修会（本学が当番校）をSDと位置づけ、本学の教育方針の説明、学院のアイデンティティ教育を行った。2019年度には法人主催の職員研修会に職員が参加し、学院のアイデンティティ教育について学んでいる。

[根拠資料] 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 2018年度教育フォーラム資料、聖公会関係学校資料、2019年度職員研修会資料

10-6 大学運営の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っ

(10-6) ているか。

適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価を実施していますか。

<input type="radio"/>	はい
<input type="radio"/>	いいえ

点検・評価方法について記入してください。
 監査法人による会計監査および内部監査の実施により、財務面ならびに大学運営面の定期的な点検を行っている。
 また、監査法人に『監査覚書』として記載された案件については、より安全性の高い財務面での運営体制を確立するため、改善に努めている。同様に内部監査については、監事から報告される「監事監査・監査状況報告」にて報告された事項について、各部門にて改善に努めている。

[根拠資料] 根拠資料がない場合は、「特になし」と記入してください。
 『監査覚書』『監事監査・監査状況報告』

(2) 長所・特色

大学運営の透明性を確保するため、執行部および基幹となる委員会については議事録を教職員の共有フォルダに保存している。教職員は、内容をいつでも確認することができる。監査については、毎年度、通常の監査の他に、監査法人による「提案型監査」を実施し、テーマに沿って「リスク」を回避できる組織についての提案を受けている。

(3) 問題点

資産図書の登録要件や旅費規程など、2018年度に設置者変更により開設した桃山学院教育大学と桃山学院大学との間に違いがある。今後同一法人であるため、細かな規程のすり合わせが必要である。